

京都障害者スポーツ振興会30周年記念事業

## 京都の障害者スポーツ実態調査（ボランティア編）

テーマ：21世紀の京都の障害者スポーツを創る

日頃は京都障害者スポーツ振興会の活動にご協力ありがとうございます。

本年、発会30周年を迎える京都障害者スポーツ振興会が、30周年記念事業のひとつとして「京都の障害者スポーツ実態調査（テーマ：21世紀の京都の障害者スポーツを創る）」を実施することになりました。

この数年を振り返ってみると「長野パラリンピック」から「シドニーパラリンピック」での選手の活躍。そして、本年から全国身体障害者スポーツ大会とゆうあいピックが統合され第1回全国障害者スポーツ大会「翔く新世紀みやぎ大会」が、開催されるなど障害者スポーツへの人々の関心は高まる一方に思われます。

発会以来30年、京都障害者スポーツ振興会は「スポーツの高度化を目指す事業（より高いレベルに向けての競技力の向上）」と「スポーツの輪を広げる事業（すべての障害のある人にスポーツの喜びを）」を取り組み、障害者スポーツの高度化と一般化へのサポートをあらゆる場面で進めてまいりました。

京都障害者スポーツ振興会は、21世紀も今まで取り組んできた事業をさらに幅広く育てていくことが基本です。しかし、今、障害のある人がスポーツを楽しめる環境づくりには何が大切なのでしょうか。地域に根ざしたスポーツ情報を提供できるシステムやそのサポート体制はあるのでしょうか。京都の現状を調査し「今」を見据える中から京都の障害者スポーツの今後を考え、21世紀の京都の障害者スポーツを皆様とともに創り出していきたいと思えます。

つきましては、ご多忙中のところ、おそれいりますが、アンケート調査にご協力お願いいたします。

尚、今回の調査は 利用者編 ボランティア編 京都府下の体育施設・各自治体・各障害者団体編 の3部構成で実施させていただきます。また調査結果につきましては記念誌でご報告させていただきますとともに、いろいろな方法でお知らせする予定です。

### \* 記入上の注意

- ・当てはまる項目の数字に 〇 を当てはまるものがないときはその他にお書きください。

### アンケートの対象（利用者編・ボランティア編）

このアンケートは下記の場であつていただいたもので、アンケートの集計についてはそれぞれの障害者スポーツごとに表現しています。

#### 記

- |                                |               |                    |    |
|--------------------------------|---------------|--------------------|----|
| 1. 「第343回障害者スポーツのつどい」          | 2001年7月8日（日）  | 京都府立体育館            |    |
| 「第344回障害者スポーツのつどい」             | 2001年8月12日（日） | 〃                  |    |
| 2. 「第21回全京都障害者総合スポーツ大会卓球バレー大会」 | 2001年6月17日（日） | 〃                  |    |
| 3. 車いすバスケット（UPS「アップス」）練習会      | 2001年9月       | 京都市川北リハビリテーションセンター |    |
| 4. 車いす駅伝（京都ステイヤーズ）練習会          | 2001年9月       | 桂川河川敷？             |    |
| 5. シンクロナイズドスイミング（コスモス）練習会      | 2001年9月       | 京都市障害者スポーツセンター     |    |
| 〃（セーラームーン）練習会                  | 2001年9月       | 〃                  |    |
| 6. 第1回全国障害者スポーツ大会              |               |                    |    |
| 京都府京都市選手強化練習会                  | 2001年9月       | 〃                  | ほか |

凡例：つどい 障害者スポーツのつどい  
卓バレー 卓球バレー  
バスケット 車いすバスケットボール  
駅伝 車いす駅伝  
シンクロ 障害者シンクロナイズドスイミング  
全スポ 全国障害者スポーツ大会

# 京都の障害者スポーツ実態調査（ボランティア編）

0. あなたは（重なって活動している方は複数に をしてください。）

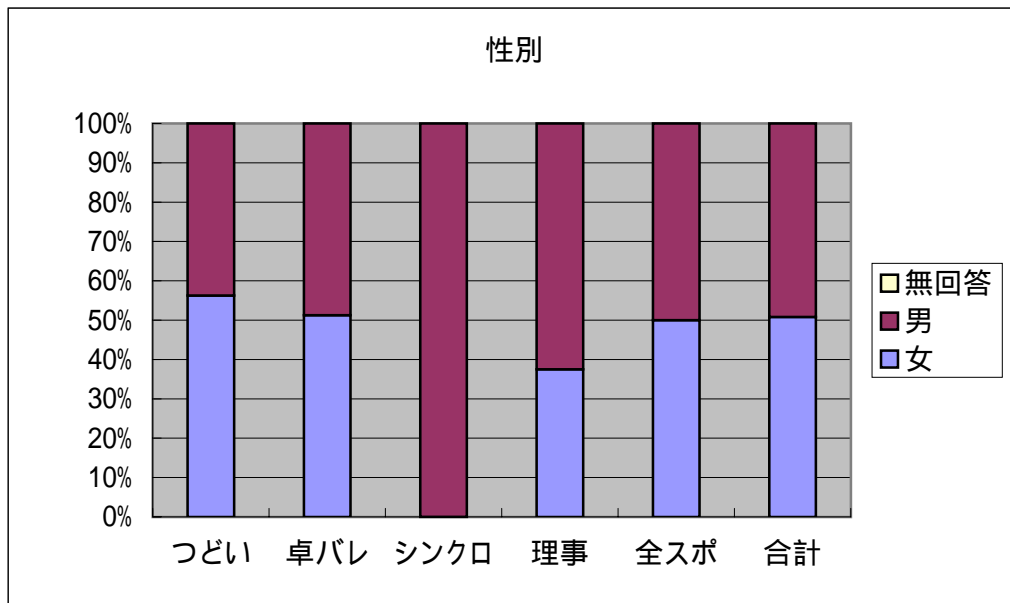
京都障害者スポーツ振興会理事会メンバー      京都障害者スポーツ振興会部員  
 卓球バレー審判      卓球バレー大会スタッフ      卓球バレーチーム付添  
 障害者スポーツのつどい（京都府立体育館）スタッフ  
 全国障害者スポーツ大会京都府・市コーチ      車いす駅伝京都チームコーチ

1. 性別は

女性

男性

設問1	つどい		卓バレ		シンクロ		理事		全スポ		合計	
女	18	56.3%	41	51.3%	0	0.0%	3	37.5%	2	50.0%	64	50.8%
男	14	43.8%	39	48.8%	2	100.0%	5	62.5%	2	50.0%	62	49.2%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	32	100.0%	80	100.0%	2	100.0%	8	100.0%	4	100.0%	126	100.0%



## 2. 年齢は

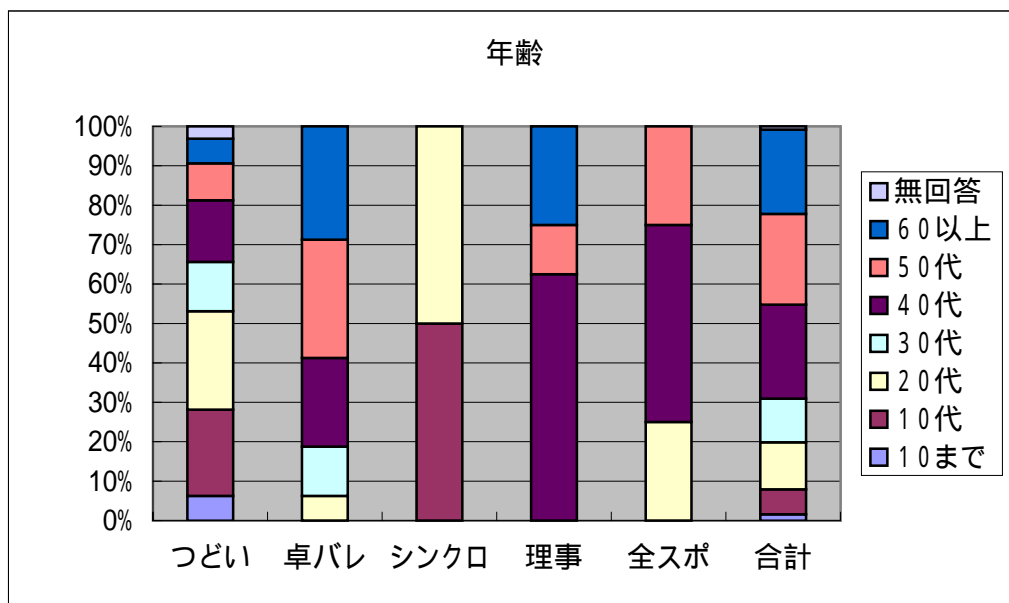
10歳まで  
40代

10代  
50代

20代  
60歳以上

30代

設問2	つどい		卓バレ		シンクロ		理事		全スポ		合計	
10まで	2	6.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.6%
10代	7	21.9%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	6.3%
20代	8	25.0%	5	6.3%	1	50.0%	0	0.0%	1	25.0%	15	11.9%
30代	4	12.5%	10	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	14	11.1%
40代	5	15.6%	18	22.5%	0	0.0%	5	62.5%	2	50.0%	30	23.8%
50代	3	9.4%	24	30.0%	0	0.0%	1	12.5%	1	25.0%	29	23.0%
60以上	2	6.3%	23	28.8%	0	0.0%	2	25.0%	0	0.0%	27	21.4%
無回答	1	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%
合計	32	100.0%	80	100.0%	2	100.0%	8	100.0%	4	100.0%	126	100.0%



### 事実

つどいのスタッフは 10代 20代が全体の約半数46.9%と多いものの、すべての年代にばらついている。

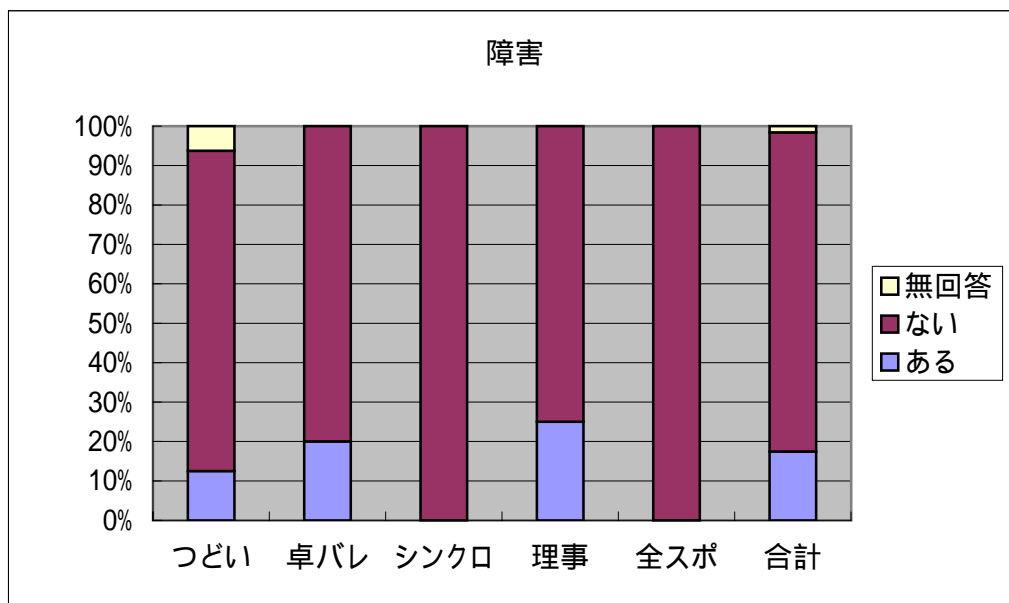
それにくらべ卓球バレーは 20代より以降の年齢層でしかも 50代 60歳以上で 58.8%。

### 問2の全体を通して

1. 「つどい」のスタッフは幅広い年齢層である。「つどい」は、参加を呼びかけている人達が幅広い年齢層である。このことを考えると、「つどい」は、ボランティア募集に際して「幅広い人たちに呼び掛けていく」という取り組みを今後も続けていくことが必要だろう。
2. 卓球バレーのスタッフは中高年代スタッフも引き続き大切にしつつ、若者の中にもっと競技を知らせていき、卓球バレーを支えるスタッフに若者も加えていく必要があるだろう。

3. 障害はありますか。  
 ある                      ない

設問3	つどい		卓バレ		シンクロ		理事		全スポ		合計	
ある	4	12.5%	16	20.0%	0	0.0%	2	25.0%	0	0.0%	22	17.5%
ない	26	81.3%	64	80.0%	2	100.0%	6	75.0%	4	100.0%	102	81.0%
無回答	2	6.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.6%
合計	32	100.0%	80	100.0%	2	100.0%	8	100.0%	4	100.0%	126	100.0%



事実

障害のあるスタッフは、つどいで12.5%、卓球バレーで20.0%であった。

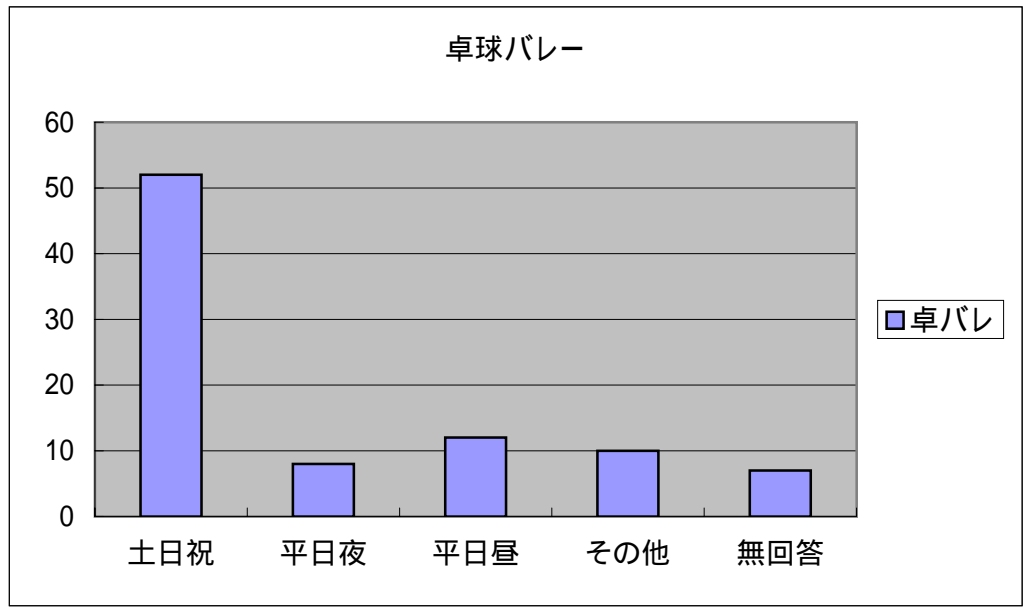
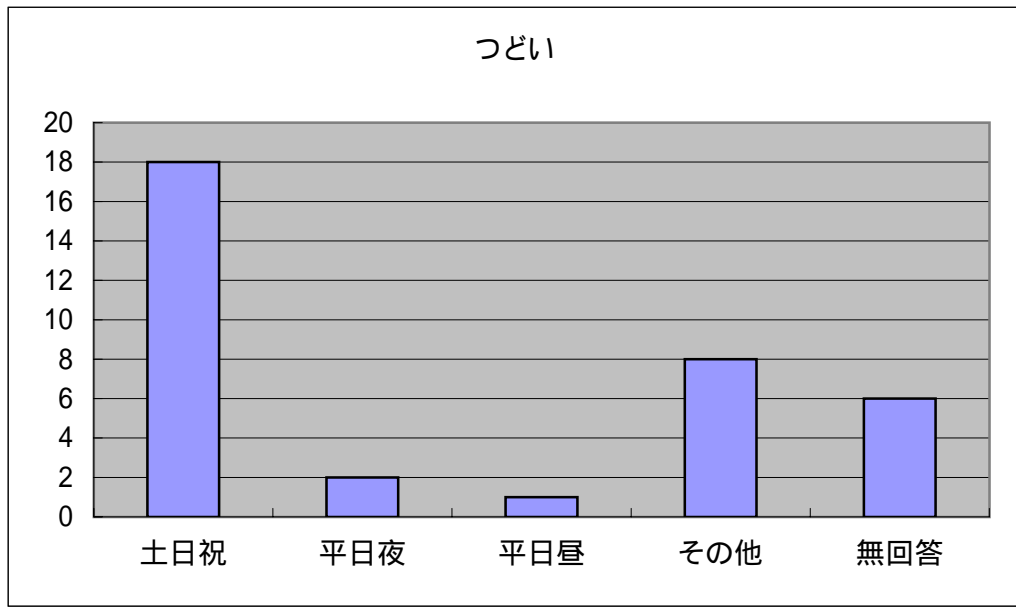
問3の全体を通して

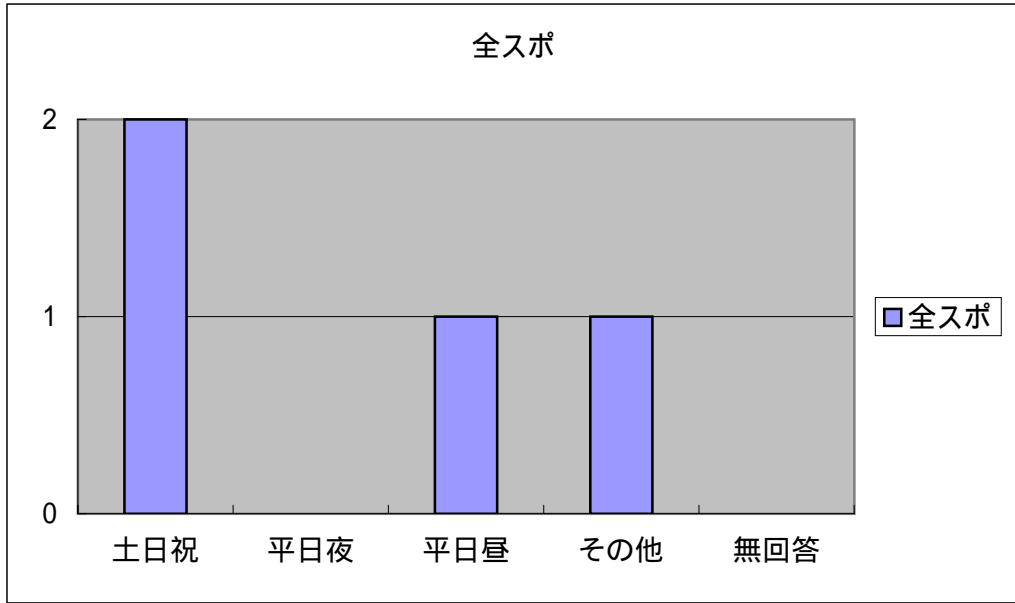
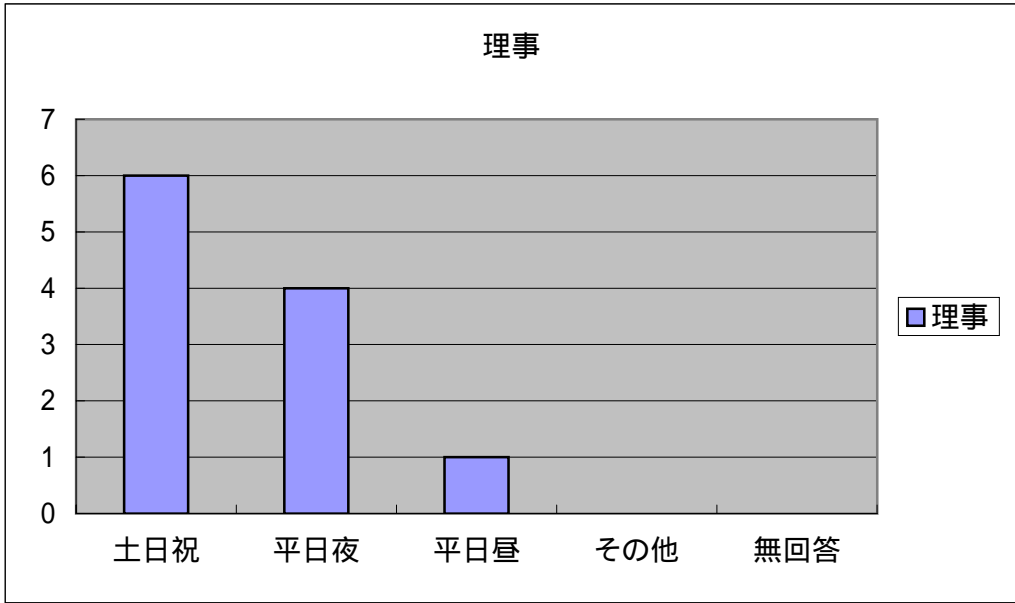
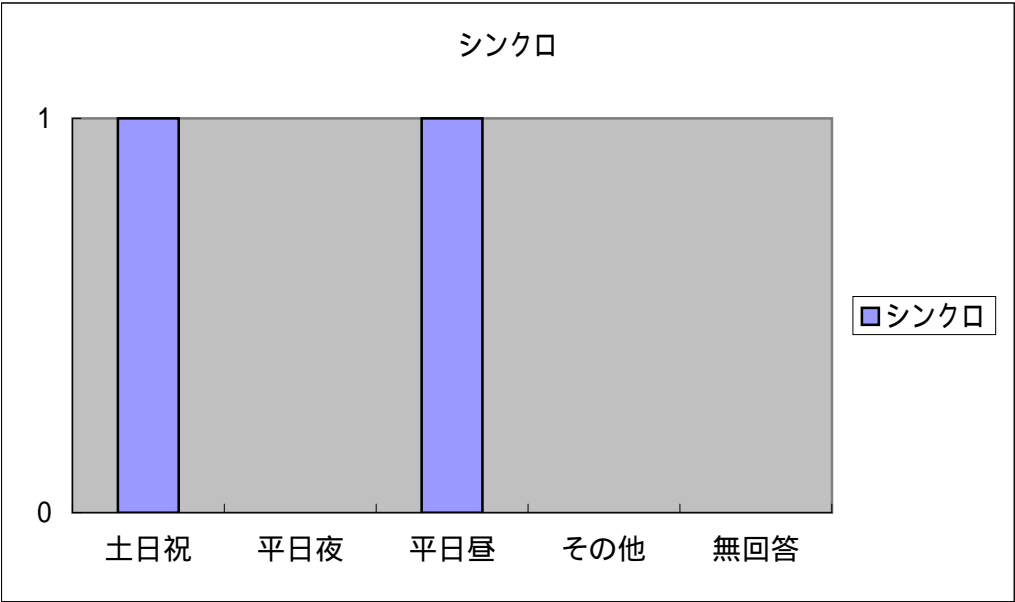
1. 障害のあるスタッフはまだまだ少ないといえる。しかし、ヨーロッパでは5～10%であることを考えると一定おられることはすばらしい。

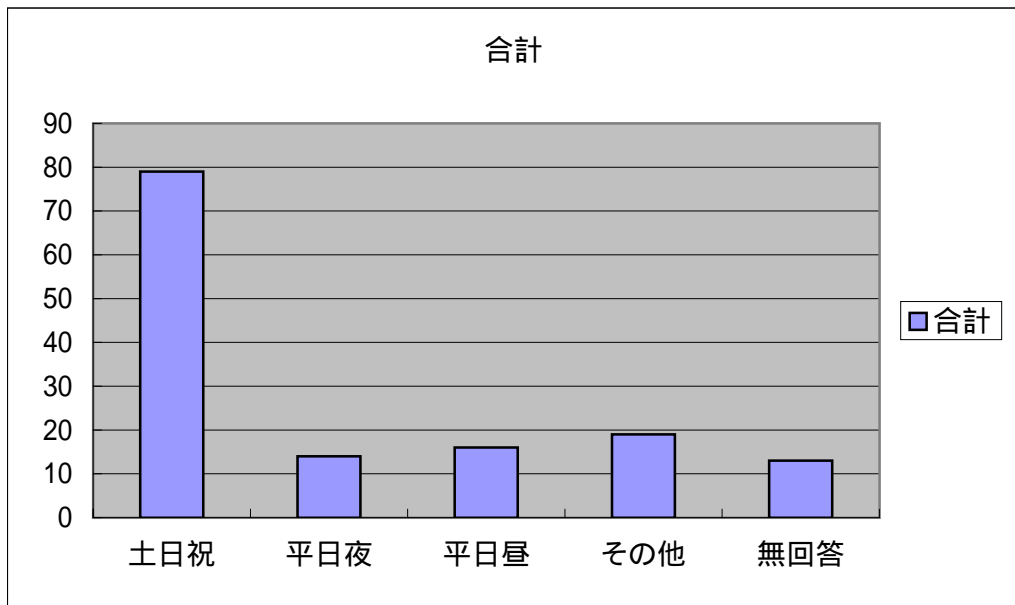
4. 活動日はいつですか。 (複数回答でもいいです)  
 土日祝日 平日夜 平日昼  
 その他 ( )

その他  
 (つどい) つどいのみ、平日朝、平日昼  
 (卓球バレー) 大きな大会の手話通訳、初めて、大会に参加、特に決まっていない3、時による2、日曜日1、その他1  
 (全スポ) 全国障害者スポーツ大会練習日

設問4	つどい		卓バレ		シンクロ		理事		全スポ		合計	
土日祝	18	51.4%	52	58.4%	1	50.0%	6	54.5%	2	50.0%	79	56.0%
平日夜	2	5.7%	8	9.0%	0	0.0%	4	36.4%	0	0.0%	14	9.9%
平日昼	1	2.9%	12	13.5%	1	50.0%	1	9.1%	1	25.0%	16	11.3%
その他	8	22.9%	10	11.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	19	13.5%
無回答	6	17.1%	7	7.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	13	9.2%
合計	35	100.0%	89	100.0%	2	100.0%	11	100.0%	4	100.0%	141	100.0%







**事実**

つどいでは 土日祝日が56.3%。卓球バレーでは 土日祝日が65.0%。

問4の全体を通して

1. 土日活動する人がほとんどである。一方で、利用者の活動日が平日夜や昼に広がっていること（利用者編の問4参照）を考えると、平日夜や昼に活動できるボランティアも必要であろう。





6. 現在どんなスポーツボランティアをしていますか（複数回答でもいいです）。

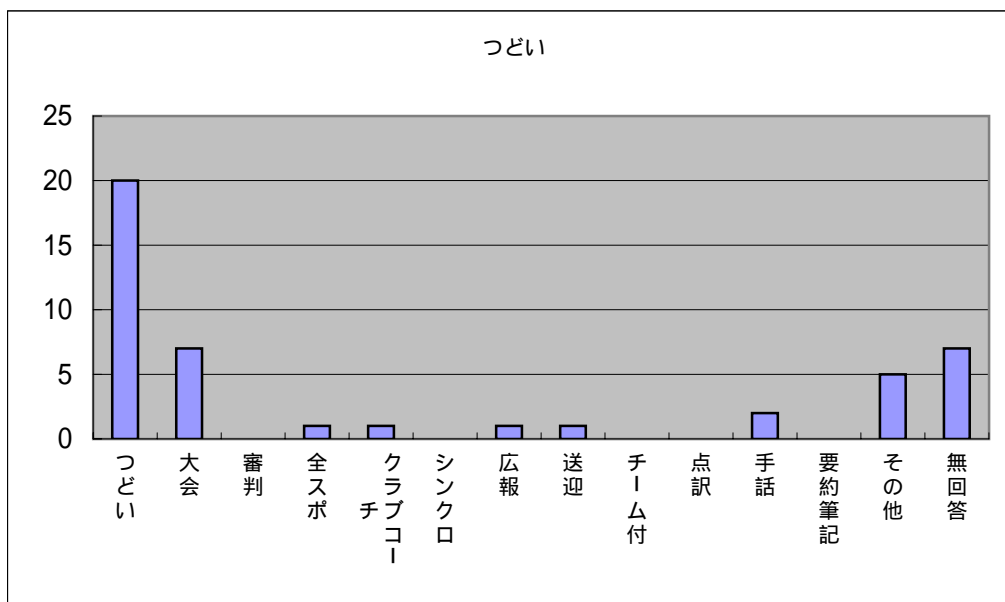
- 「つどい」のスタッフ
- 大会（卓球バレー・卓球・水泳・陸上・アーチェリー・シンクロナイズドスイミング・車いすハンドボール・車いす駅伝）のスタッフ（受付・会場係・選手係など）
- 審判（卓球バレー・車いすハンドボール）
- 全国障害者スポーツ大会コーチ
- クラブチームなどのコーチ（車いす駅伝・車いすバスケット・陸上）
- シンクロナイズドスイミングの選手（障害のない選手）
- 新聞写真ビデオ等広報活動
- 送迎
- チームづき・サークル
- 点訳
- 手話
- 要約筆記
- その他

その他

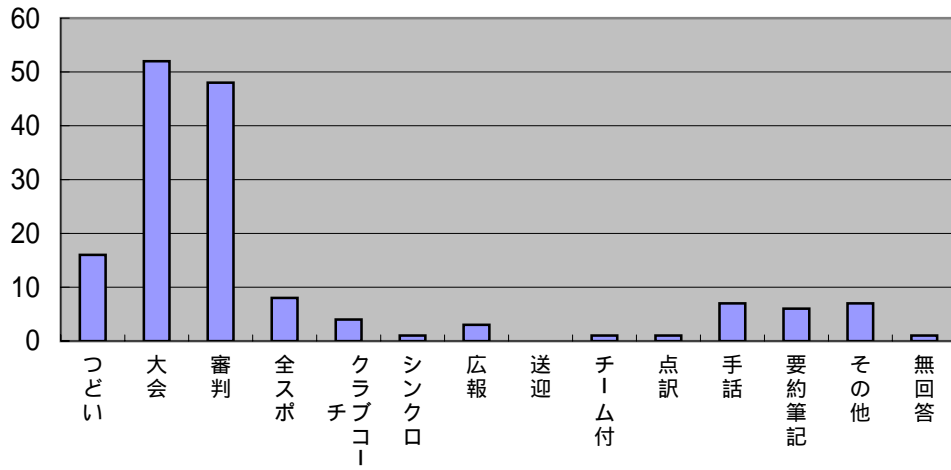
（卓球バレー）

視覚障害者ゴルフ、高齢者スポーツ、ハロイック、研修・スキーのつどい、その他3

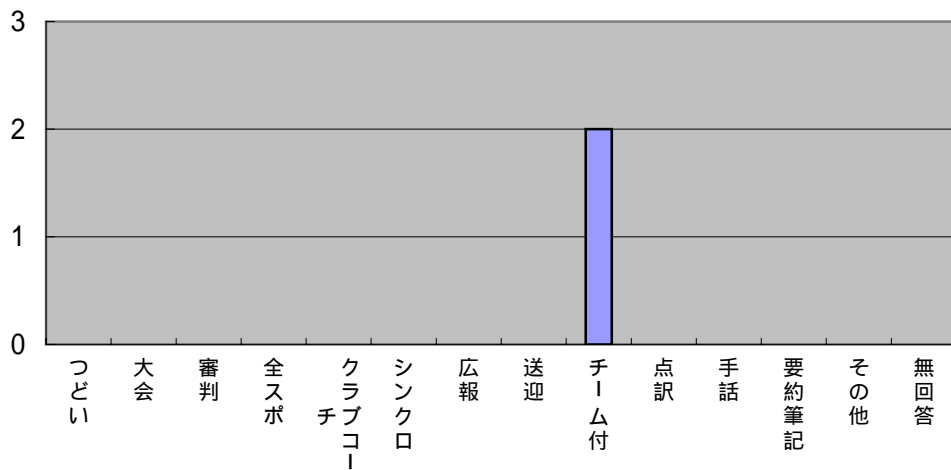
設問6	つどい		卓バレ		シンクロ		理事		全スポ		合計	
つどい	20	44.4%	16	10.3%	0	0.0%	3	15.8%	0	0.0%	39	17.3%
大会	7	15.6%	52	33.5%	0	0.0%	6	31.6%	0	0.0%	65	28.9%
審判	0	0.0%	48	31.0%	0	0.0%	1	5.3%	0	0.0%	49	21.8%
全スポ	1	2.2%	8	5.2%	0	0.0%	3	15.8%	3	75.0%	15	6.7%
クラブコーチ	1	2.2%	4	2.6%	0	0.0%	1	5.3%	0	0.0%	6	2.7%
シンクロ	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	2	10.5%	0	0.0%	3	1.3%
広報	1	2.2%	3	1.9%	0	0.0%	2	10.5%	0	0.0%	6	2.7%
送迎	1	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%	0	0.0%	2	0.9%
チーム付	0	0.0%	1	0.6%	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.3%
点訳	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%
手話	2	4.4%	7	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	4.0%
要約筆記	0	0.0%	6	3.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	2.7%
その他	5	11.1%	7	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	13	5.8%
無回答	7	15.6%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	3.6%
合計	45	100.0%	155	100.0%	2	100.0%	19	100.0%	4	100.0%	225	100.0%



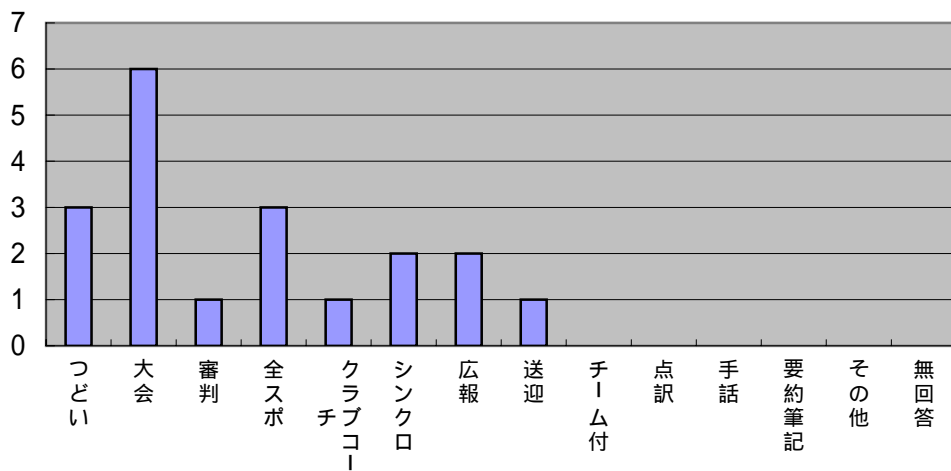
卓球バレー

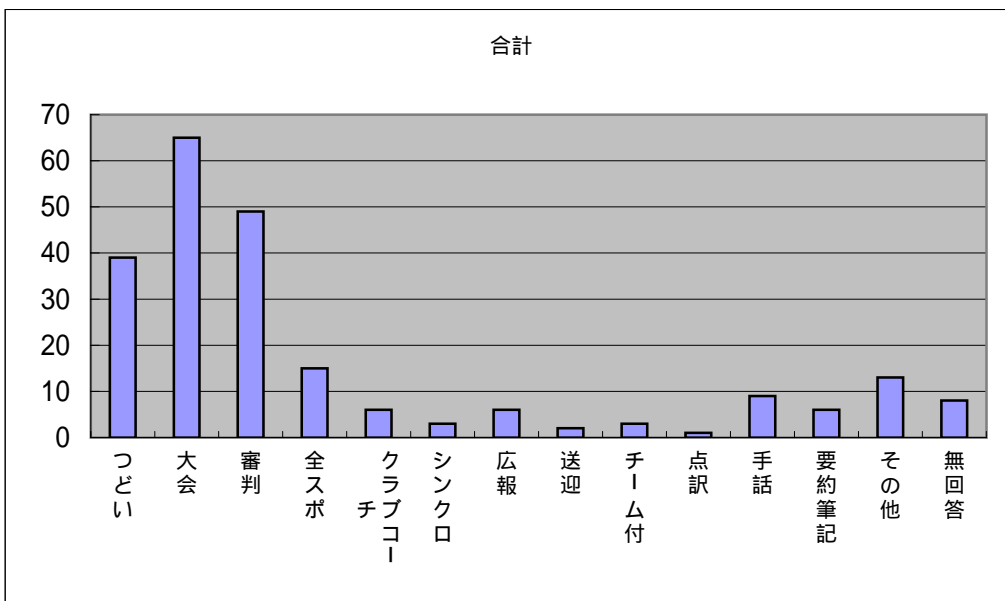
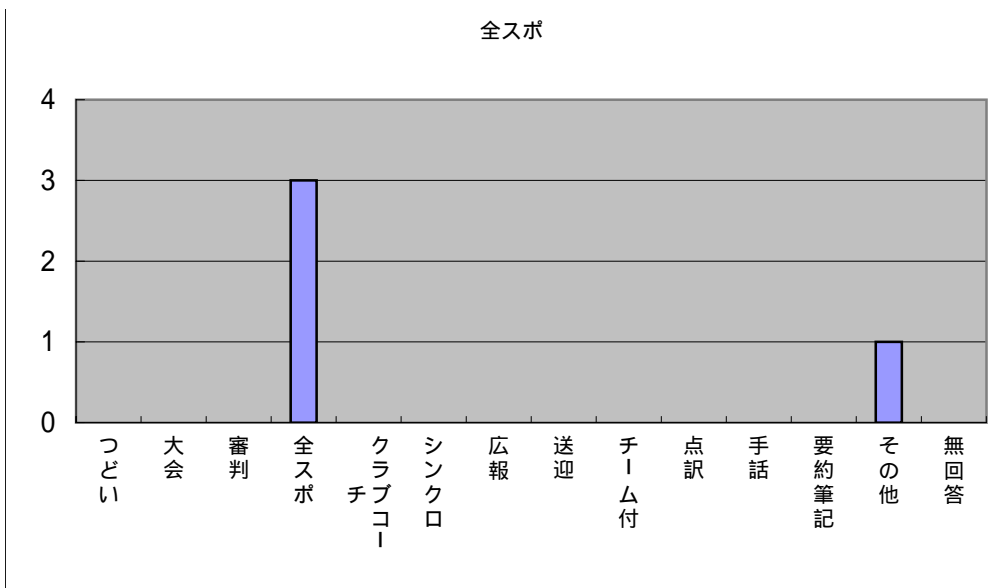


シンクロ



理事





事実

卓球バレースタッフ 52%、審判(卓球バレー・車いすバドミントン) 38.8%、つどいスタッフ 31.0%、全スポコーチ 11.9%

7. スポーツボランティアを始めたいきっかけは（複数回答でもいいです）。

- 障害のある人(家族・友人)にスポーツの機会を持ってもらいたいと思った。
- 障害のある人(家族・友人)に参加のお手伝いを頼まれた。
- 障害者福祉のテレビや新聞記事を見てやってみようと思った。
- 障害者スポーツを見て何かお手伝いできることはないかと思った。
- スポーツの楽しさを知っていて、楽しさを障害のある人にも伝えようと思った。
- 障害のある人にスポーツ指導をしたいと思った。
- 仕事(福祉・医療・教育関係)以外にも何かできないかと思った。
- 仕事(その他の仕事)以外にも何かできないかと思った。
- 子育てが終わって・退職して何か社会に役立つことをしたかった。
- その他（ )

その他  
(つどい)

大学の紹介

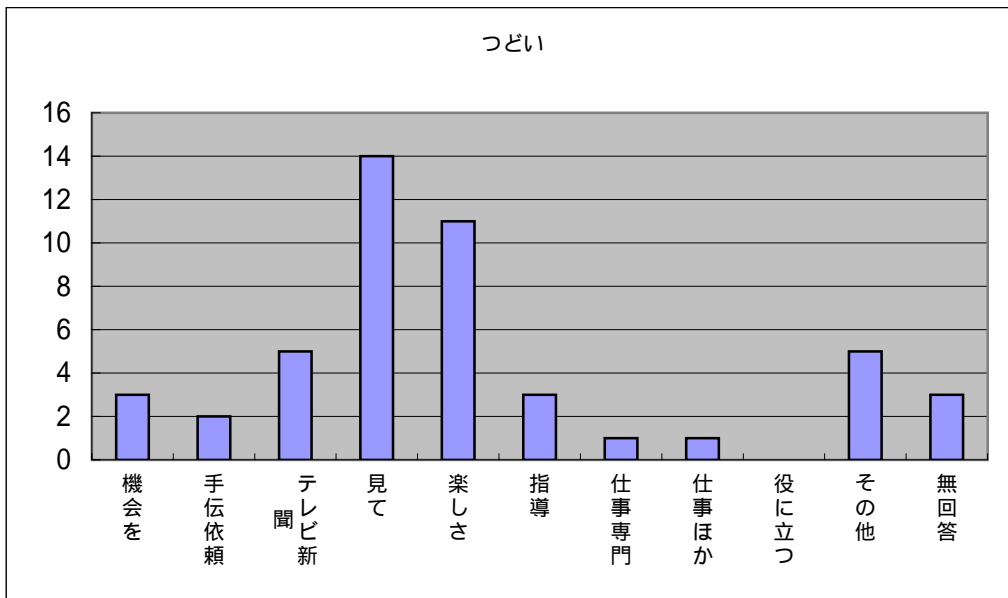
(卓球バレー)

スポーツをともに楽しみたい、友人に誘われて、自分の健康維持とともに障害のある人と楽しむため、障害者についていて、知人のボランティアを見て、手話通訳の協力員をしていて他にも役立つことがしたいと思った

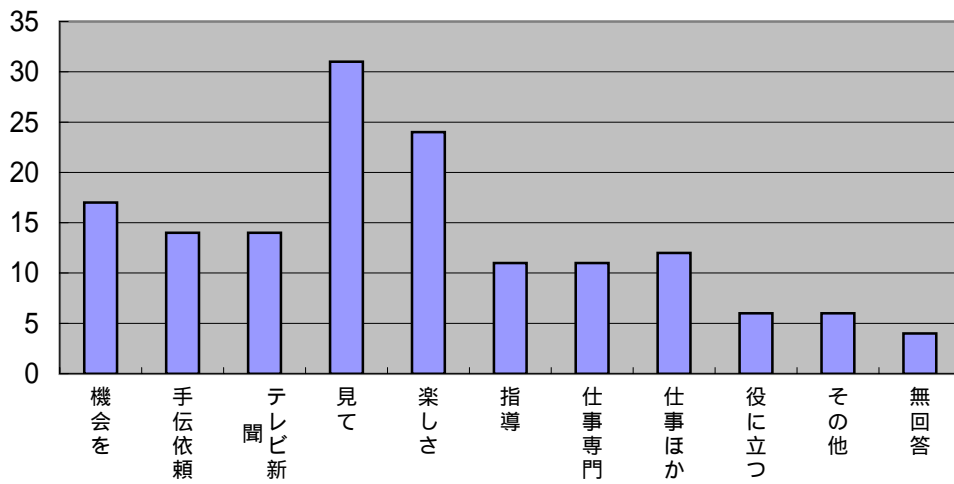
(理事)

就職した職場の職員が事務を担当することになっていた

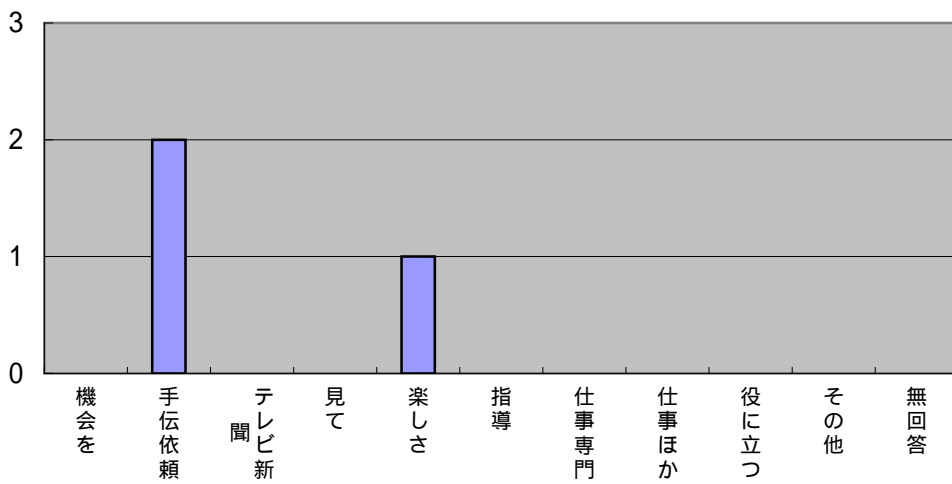
設問7	つどい		卓バレ		シンクロ		理事		全スポ		合計	
機会を	3	6.3%	17	11.3%	0	0.0%	2	10.0%	2	18.2%	24	10.3%
手伝依頼	2	4.2%	14	9.3%	2	66.7%	1	5.0%	0	0.0%	19	8.2%
テレビ新聞	5	10.4%	14	9.3%	0	0.0%	2	10.0%	0	0.0%	21	9.1%
見て	14	29.2%	31	20.7%	0	0.0%	4	20.0%	2	18.2%	51	22.0%
楽しさ	11	22.9%	24	16.0%	1	33.3%	4	20.0%	3	27.3%	43	18.5%
指導	3	6.3%	11	7.3%	0	0.0%	5	25.0%	2	18.2%	21	9.1%
仕事専門	1	2.1%	11	7.3%	0	0.0%	1	5.0%	1	9.1%	14	6.0%
仕事ほか	1	2.1%	12	8.0%	0	0.0%	1	5.0%	1	9.1%	15	6.5%
役に立つ	0	0.0%	6	4.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	2.6%
その他	5	10.4%	6	4.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	4.7%
無回答	3	6.3%	4	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	3.0%
合計	48	100.0%	150	100.0%	3	100.0%	20	100.0%	11	100.0%	232	100.0%



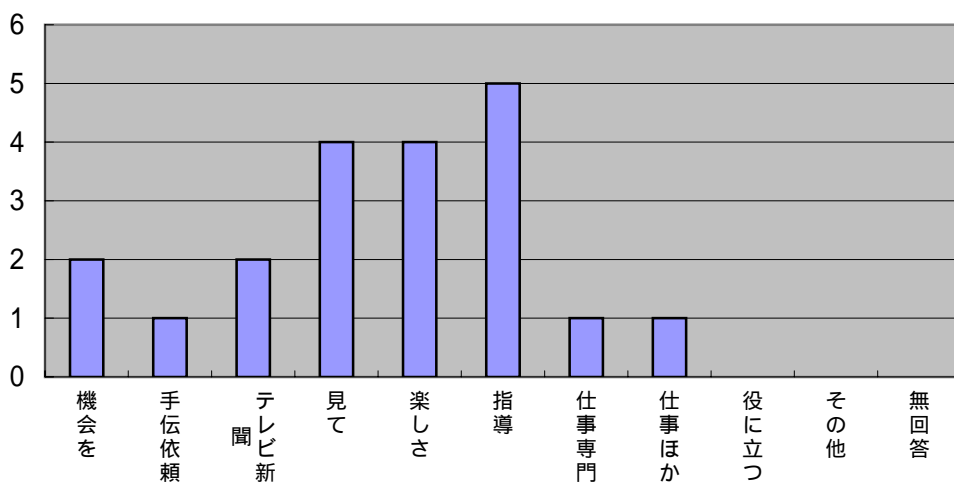
卓球バレー

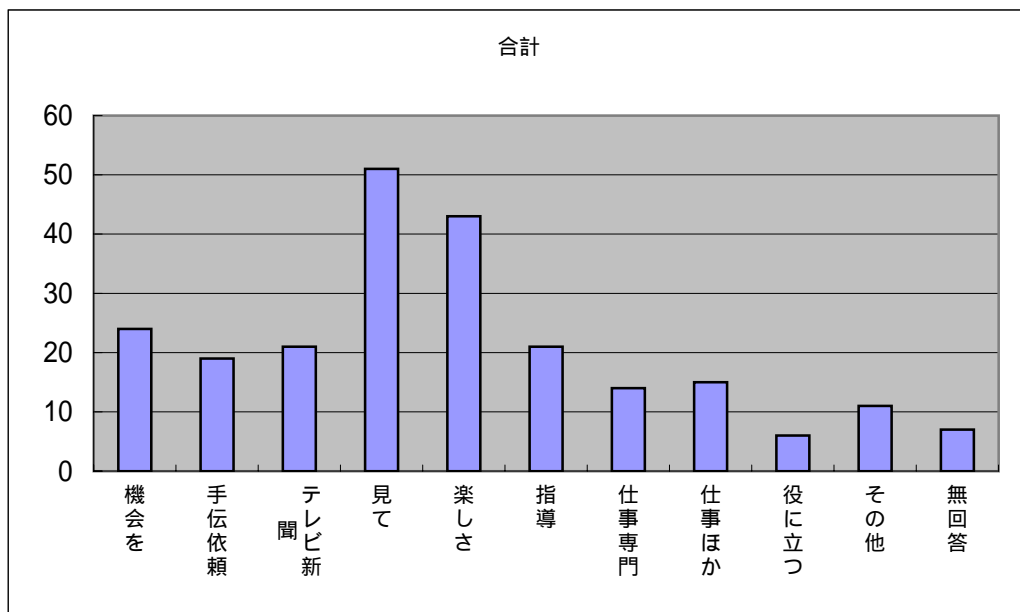
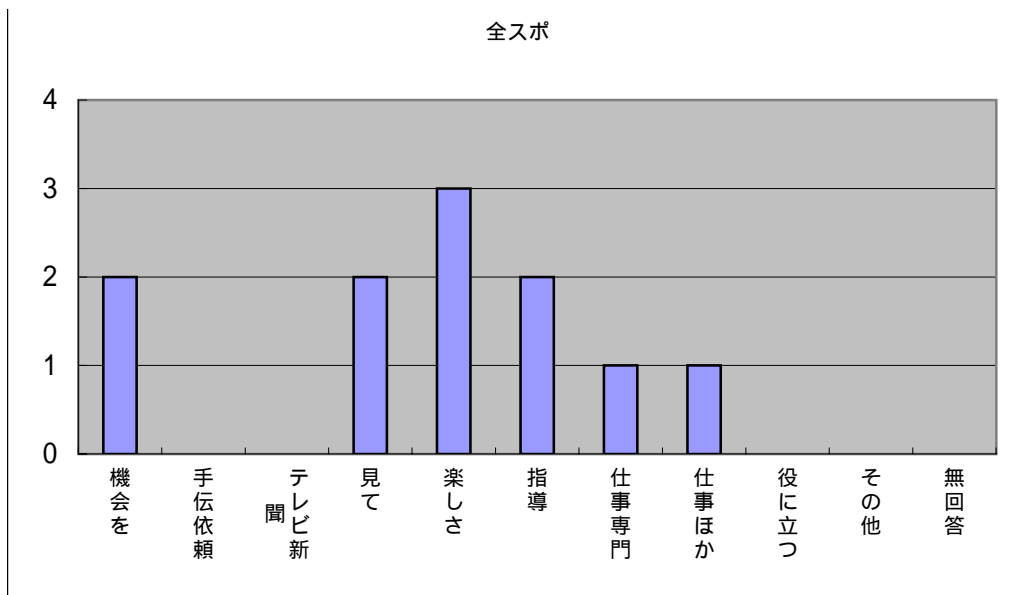


シンクロ



理事





事実

障害者スポーツを見て 40.5%、スポーツの楽しさを伝えたい 34.1%、友人・家族に機会を 19.0%、テレビ新聞を見て 16.7%、スポーツ指導をしたい 16.7%

8. ボランティアをしてよかったと思うこと（複数回答でもいいです）。

- 障害のある人の喜ぶ笑顔を見た。
- 障害のある人の「ありがとう」のことばを聞いた。
- 障害のある人の努力の姿を見た（記録・成績・演技など）。
- 障害のある友人ができた。
- ボランティアの友人ができた。
- 人生観が変わった（前向きに生きようになったなど）。
- 仕事の参考になった。
- 障害についてのとらえ方が変わった。
- その他（

）

その他  
（つどい）

自己満足や固定観念を崩させること

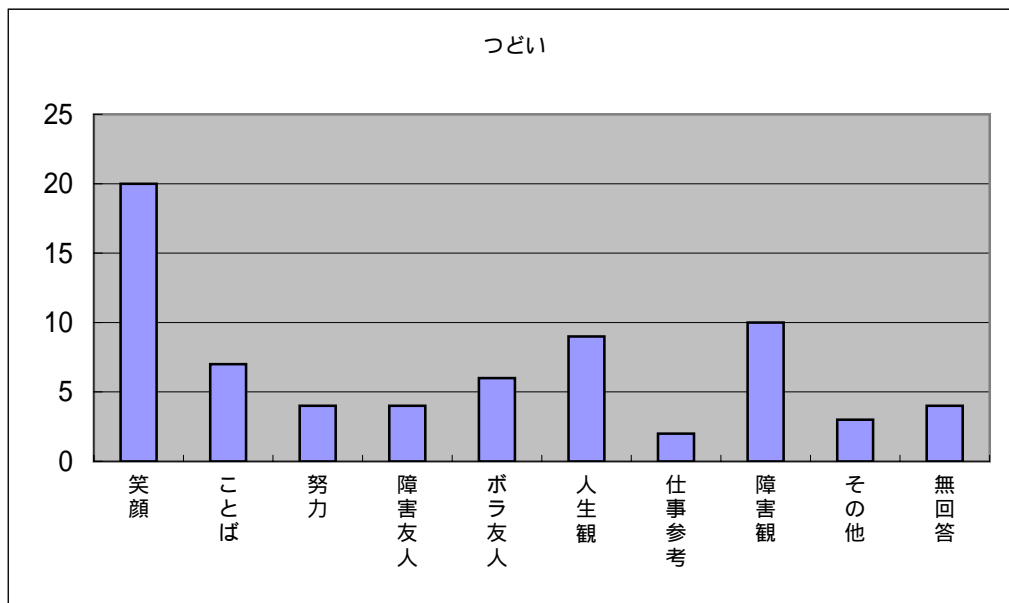
（卓球バレー）

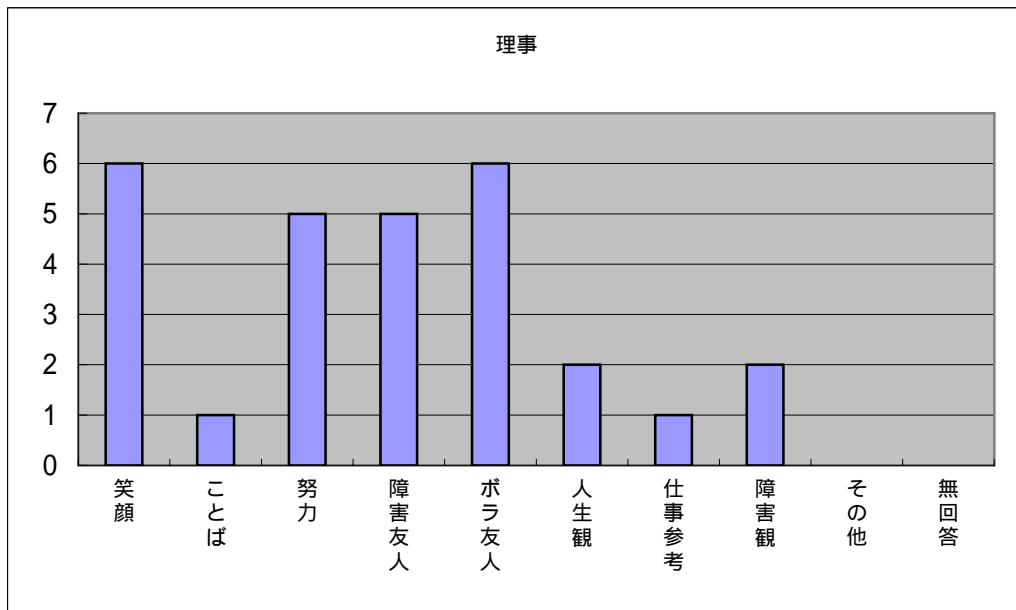
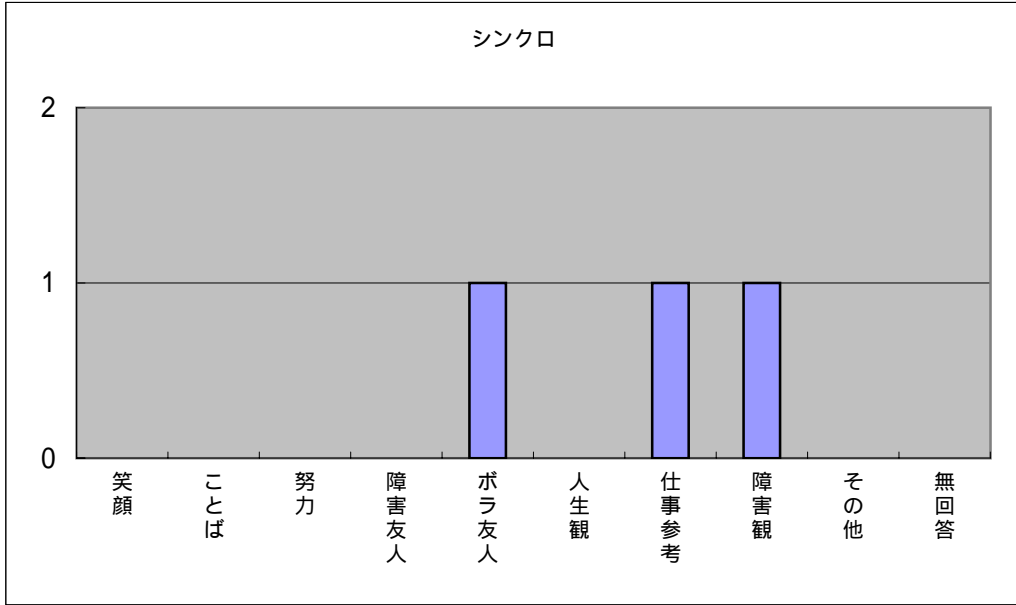
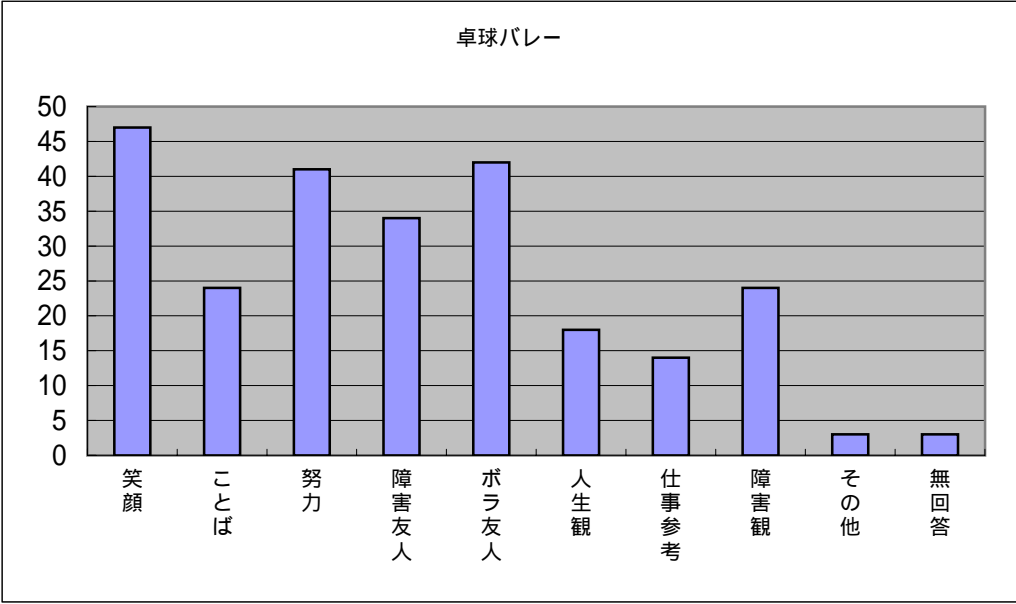
世界が広がった、自分の身体のリハビリのため、自分が楽しい

（理事）

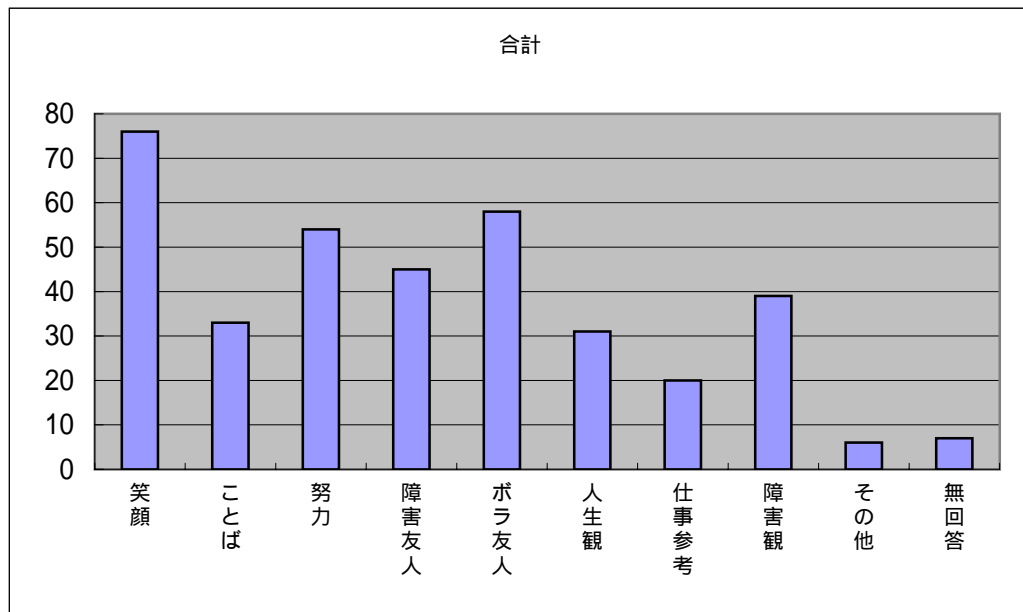
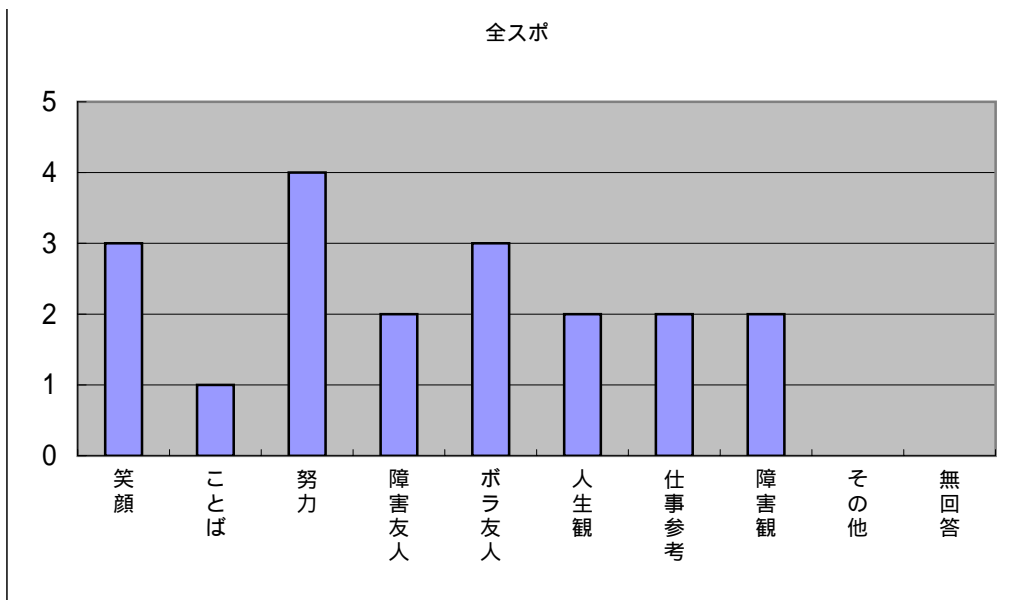
- ・自分がボランティアに参加できることがうれしい。みんなのパワーをいっぱいもらっている
- ・自分が楽しいのです

設問8	つどい		卓バレ		シンクロ		理事		全スポ		合計	
笑顔	20	29.0%	47	18.8%	0	0.0%	6	21.4%	3	15.8%	76	20.6%
ことば	7	10.1%	24	9.6%	0	0.0%	1	3.6%	1	5.3%	33	8.9%
努力	4	5.8%	41	16.4%	0	0.0%	5	17.9%	4	21.1%	54	14.6%
障害友人	4	5.8%	34	13.6%	0	0.0%	5	17.9%	2	10.5%	45	12.2%
ボラ友人	6	8.7%	42	16.8%	1	33.3%	6	21.4%	3	15.8%	58	15.7%
人生観	9	13.0%	18	7.2%	0	0.0%	2	7.1%	2	10.5%	31	8.4%
仕事参考	2	2.9%	14	5.6%	1	33.3%	1	3.6%	2	10.5%	20	5.4%
障害観	10	14.5%	24	9.6%	1	33.3%	2	7.1%	2	10.5%	39	10.6%
その他	3	4.3%	3	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	1.6%
無回答	4	5.8%	3	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	1.9%
合計	69	100.0%	250	100.0%	3	100.0%	28	100.0%	19	100.0%	369	100.0%









## 事実

喜ぶ笑顔を見た 60.3%、ボランティアの友人ができた 46.0%、努力の姿を見た(記録演技) 42.9%、障害のある友人ができた 35.7%、障害のとらえ方が変わった 31.0%

問8の全体を通して

1. 「障害のある人の喜ぶ笑顔を見た」「障害のある友人・ボランティアの友人ができた」「障害のある人の努力の姿を見た」などからボランティア自身が得たものが特に多かった。

9. これからどんなスポーツボランティアをしたいですか（複数回答でもいいです）。

- 「つどい」のスタッフ
- 大会（卓球バレー・卓球・水泳・陸上・アーチェリー・シンクロナイズドスイミング・車いすハンドボール・車いす駅伝）のスタッフ（受付・会場係・選手係など）
- 審判（卓球バレー・車いすハンドボール）
- 全国障害者スポーツ大会コーチ
- クラブチームなどのコーチ（車いす駅伝・車いすバスケット・陸上）
- シンクロナイズドスイミングの選手（障害を持たない選手）
- 新聞写真ビデオ等広報活動
- 送迎
- チームづき・サークル
- 点訳
- 手話
- 要約筆記
- その他（ )

その他

（つどい）

今は未定、イベント企画、もう少し休憩したい

（卓球バレー）

特に考えていない、自分にできるものは何でも、自分を受け入れてくれるところ、スキのボランティア、今のままでよい

（シンクロ）

特になし

（全スポ）

フライングディスクをいろんな方に知ってもらいたい。

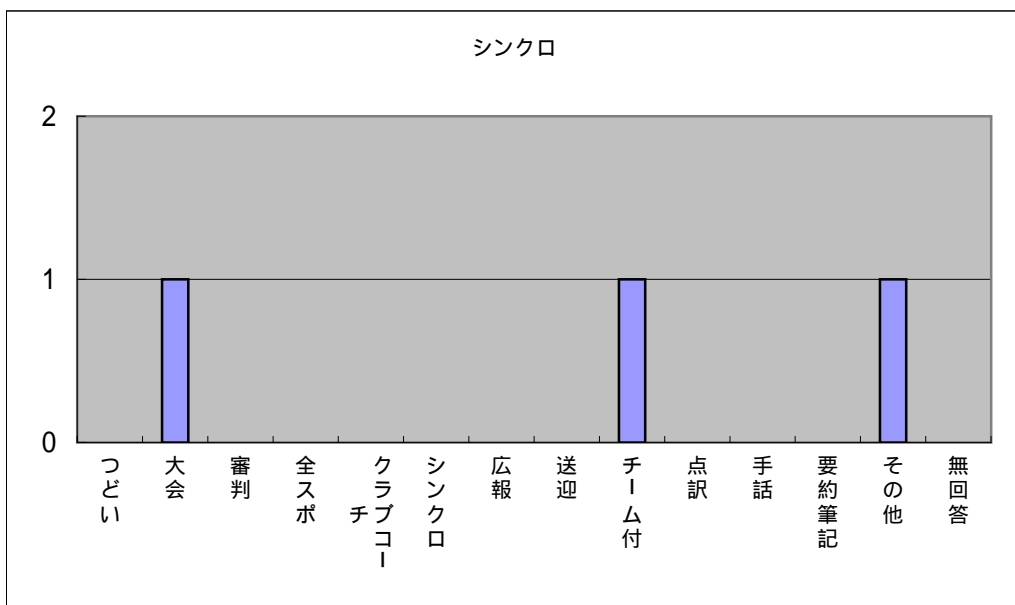
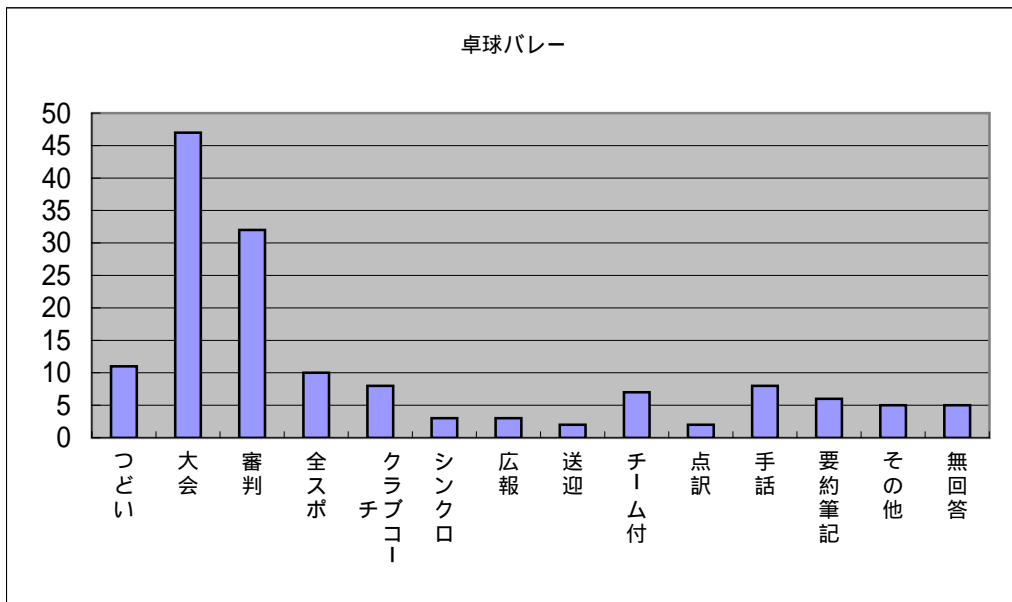
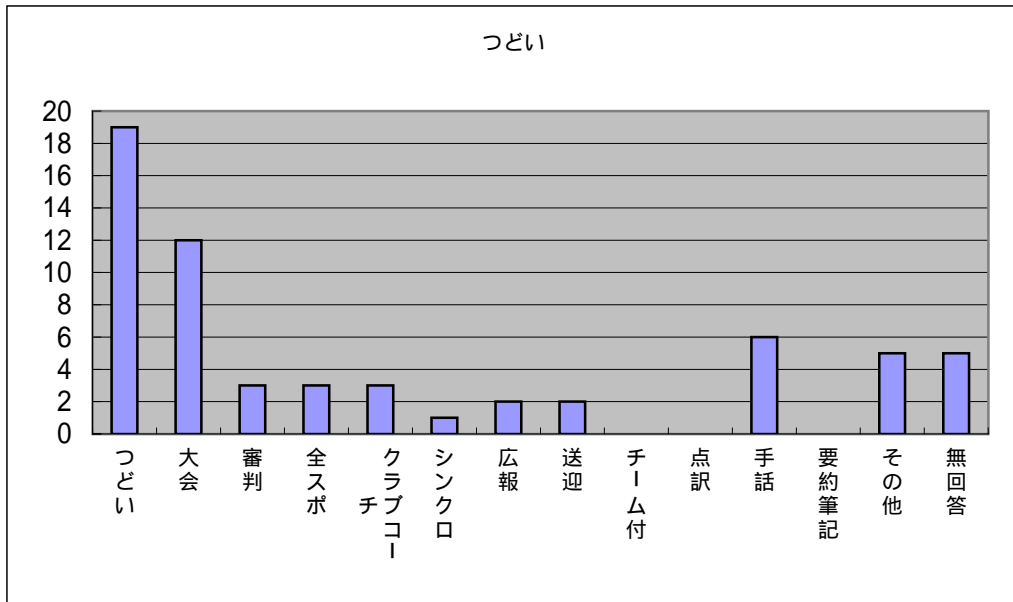
設問9	つどい		卓バレ		シンクロ		理事		全スポ		合計	
つどい	19	31.1%	11	7.4%	0	0.0%	3	23.1%	0	0.0%	33	14.2%
大会	12	19.7%	47	31.5%	1	33.3%	2	15.4%	0	0.0%	62	26.7%
審判	3	4.9%	32	21.5%	0	0.0%	1	7.7%	0	0.0%	36	15.5%
全スポ	3	4.9%	10	6.7%	0	0.0%	2	15.4%	4	66.7%	19	8.2%
クラブコーチ	3	4.9%	8	5.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	4.7%
シンクロ	1	1.6%	3	2.0%	0	0.0%	3	23.1%	0	0.0%	7	3.0%
広報	2	3.3%	3	2.0%	0	0.0%	1	7.7%	0	0.0%	6	2.6%
送迎	2	3.3%	2	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.7%
チーム付	0	0.0%	7	4.7%	1	33.3%	0	0.0%	1	16.7%	9	3.9%
点訳	0	0.0%	2	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.9%
手話	6	9.8%	8	5.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	14	6.0%
要約筆記	0	0.0%	6	4.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	2.6%
その他	5	8.2%	5	3.4%	1	33.3%	0	0.0%	1	16.7%	12	5.2%
無回答	5	8.2%	5	3.4%	0	0.0%	1	7.7%	0	0.0%	11	4.7%
合計	61	100.0%	149	100.0%	3	100.0%	13	100.0%	6	100.0%	232	100.0%

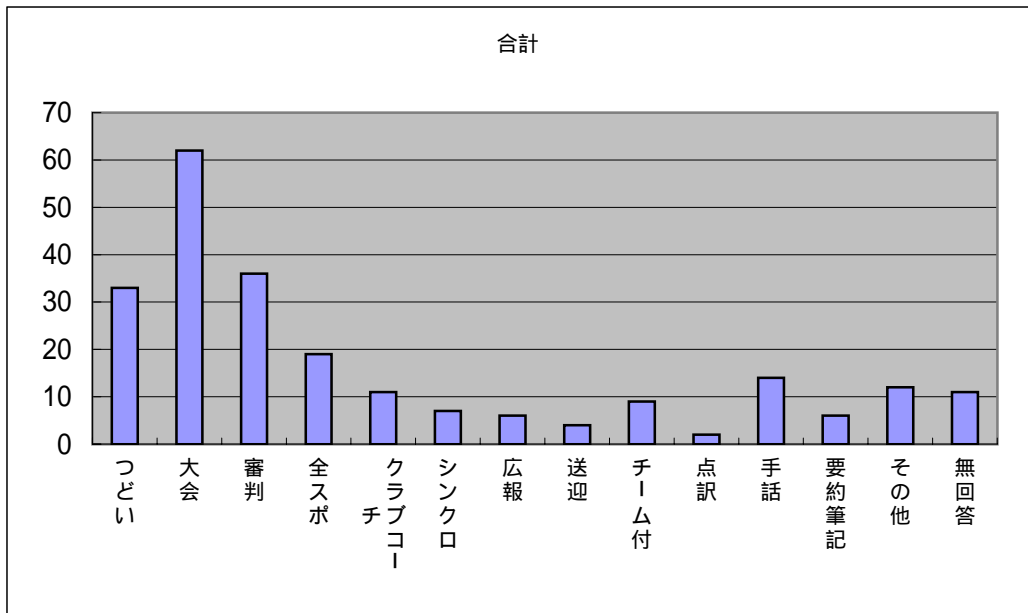
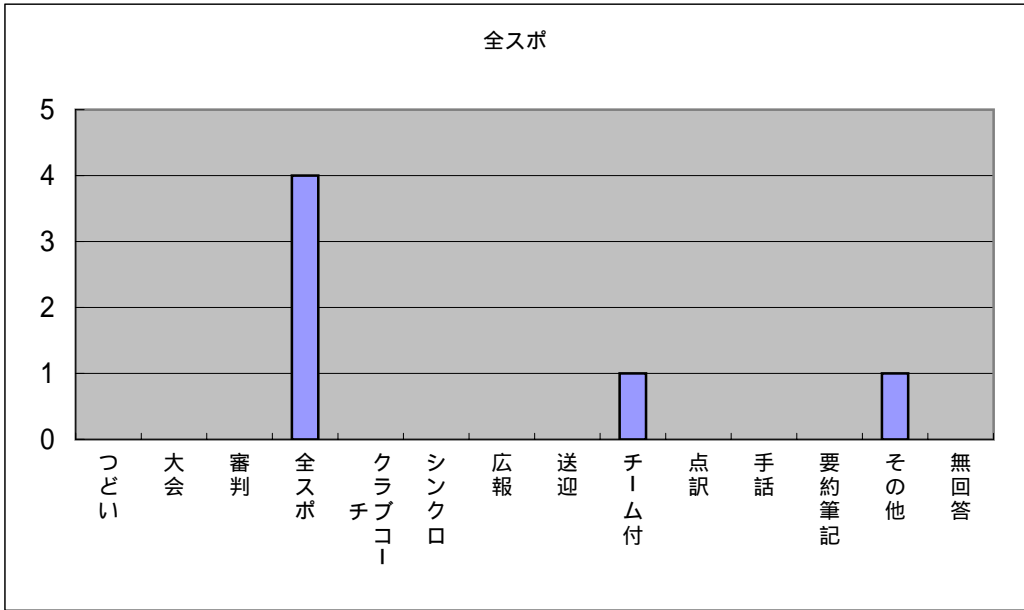
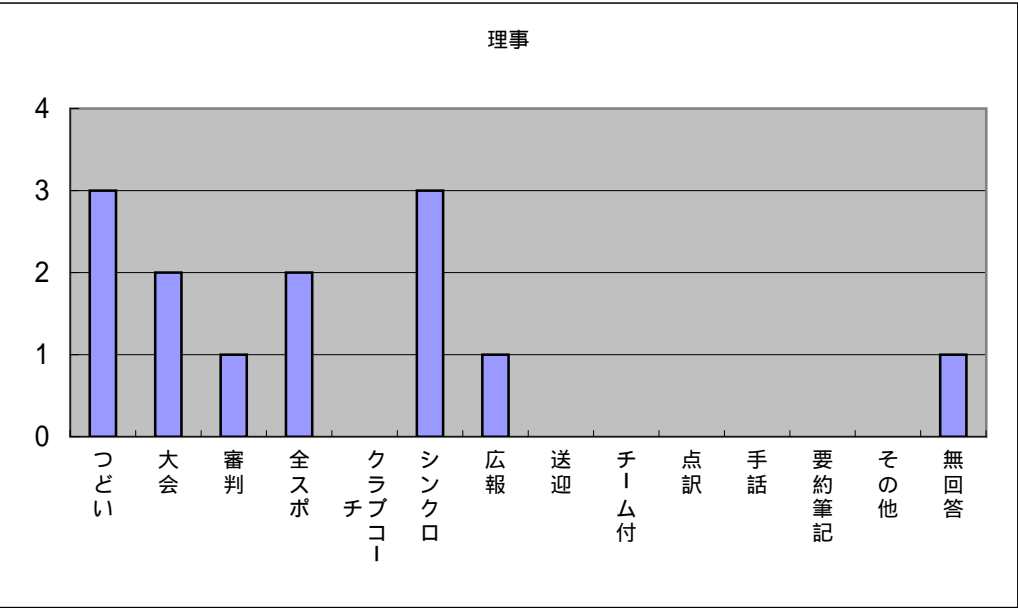
#### 事実

大会スタッフ 49.2%、審判 28.6%、つどいスタッフ 26.2%、全スポコ-チ 15.1%、手話通訳 11.1%

問9の全体を通して

1. 今している活動を続けたい人がほとんどである。





10. 2 1世紀の京都の障害者スポーツの発展に大切なことは何だとお考えですか。  
(複数回答でもいいです)

- より身近なところで気軽に楽しめるスポーツ施設や環境をつくること。
- 障害者スポーツサークルを地域でたくさんつくること。
- 地域で活動してくれるスタッフを育てること。
- スポーツボランティアをコーディネートできるスタッフを増やすこと。
- 選手育成に力を入れたいスタッフを育てること。
- 障害者スポーツ情報を集め、多くの人に提供する体制をつくること。
- もっと障害の重い人にも楽しめるスポーツを開発すること。
- 障害のある人もない人もともに楽しめるスポーツを開発すること。
- 障害者スポーツの人口を増やすこと。
- 今ある大会やつどい等の中味を充実させること。
- 京都の選手の競技力向上をささえること。
- その他 ( )

その他  
(卓球バレー)

- ・障害を持ってでもスポーツができるということを知らせること
- ・自然とのふれあいを柱にした企画
- ・お客様扱いをやめること
- ・障害のあるなしに関係なく共に楽しめる場と指導者が必要

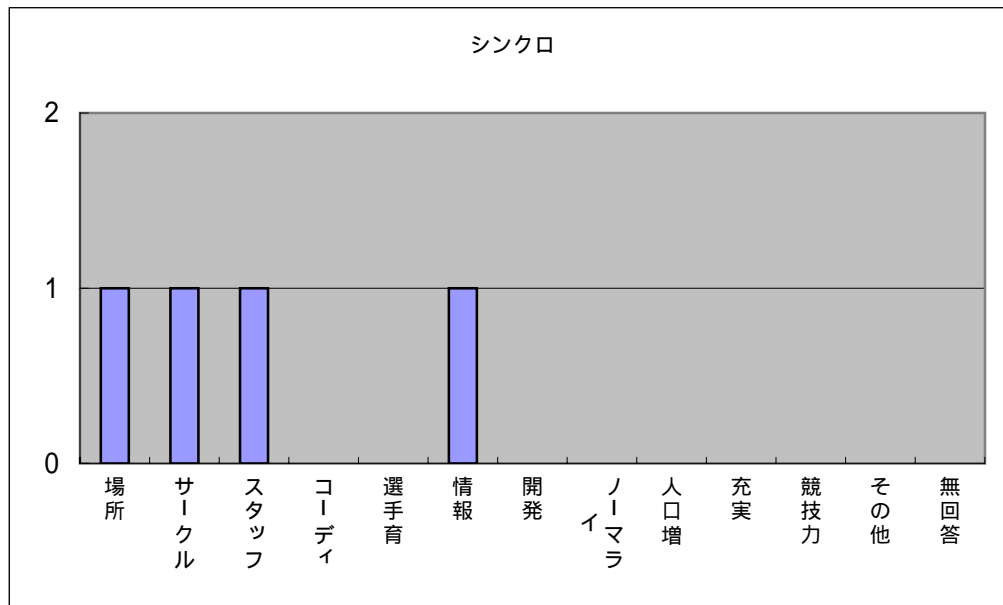
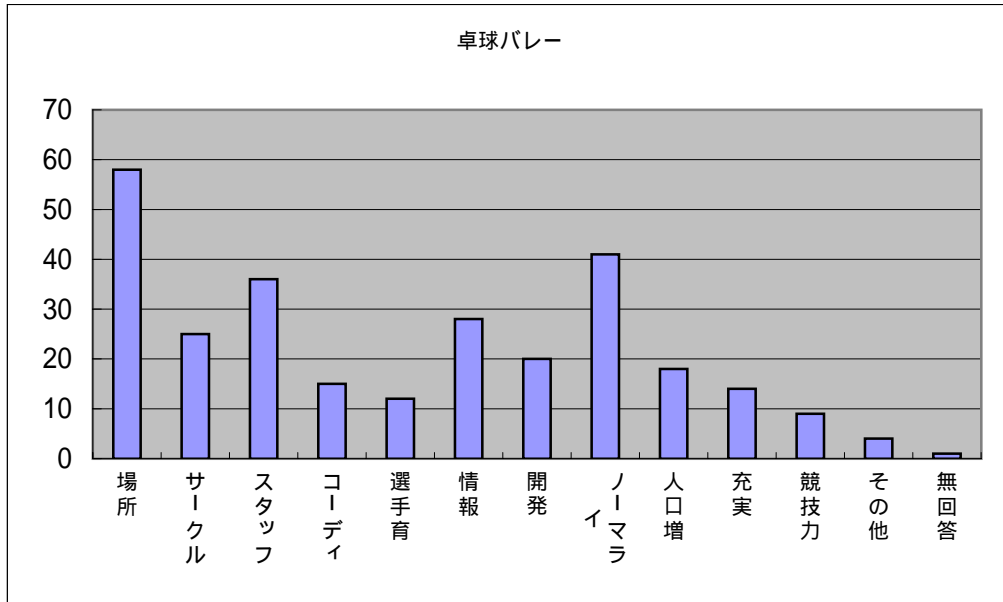
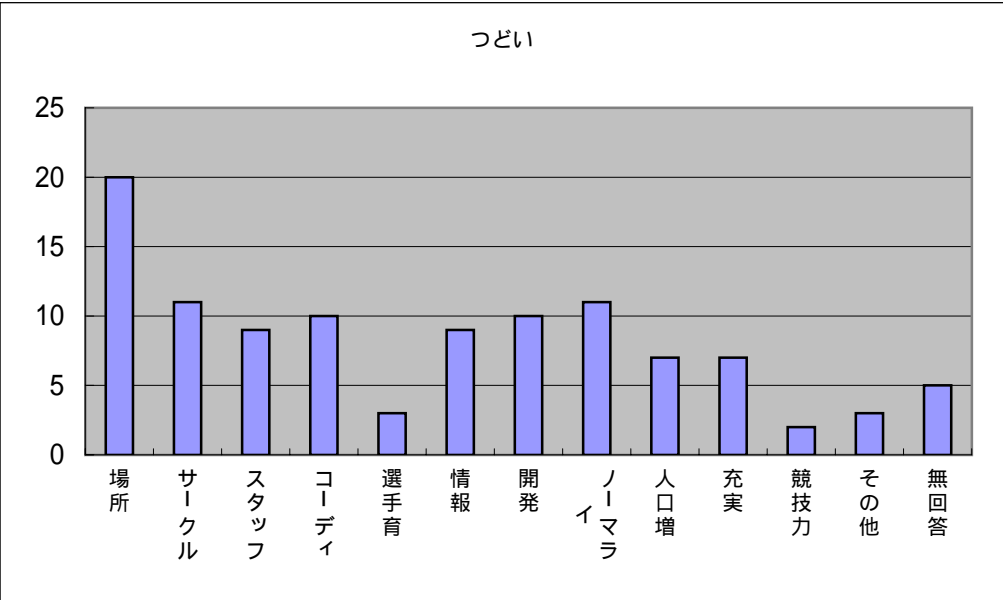
設問10	つどい		卓バレ		シンクロ		理事		全スポ		合計	
場所	20	18.7%	58	20.6%	1	25.0%	6	17.1%	3	15.0%	88	19.7%
サークル	11	10.3%	25	8.9%	1	25.0%	5	14.3%	2	10.0%	44	9.8%
スタッフ	9	8.4%	36	12.8%	1	25.0%	6	17.1%	1	5.0%	53	11.9%
コーディネ	10	9.3%	15	5.3%	0	0.0%	3	8.6%	3	15.0%	31	6.9%
選手育	3	2.8%	12	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.0%	16	3.6%
情報	9	8.4%	28	10.0%	1	25.0%	1	2.9%	2	10.0%	41	9.2%
開発	10	9.3%	20	7.1%	0	0.0%	3	8.6%	2	10.0%	35	7.8%
ノーマライ	11	10.3%	41	14.6%	0	0.0%	5	14.3%	2	10.0%	59	13.2%
人口増	7	6.5%	18	6.4%	0	0.0%	1	2.9%	1	5.0%	27	6.0%
充実	7	6.5%	14	5.0%	0	0.0%	3	8.6%	1	5.0%	25	5.6%
競技力	2	1.9%	9	3.2%	0	0.0%	1	2.9%	2	10.0%	14	3.1%
その他	3	2.8%	4	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	1.6%
無回答	5	4.7%	1	0.4%	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%	7	1.6%
合計	107	100.0%	281	100.0%	4	100.0%	35	100.0%	20	100.0%	447	100.0%

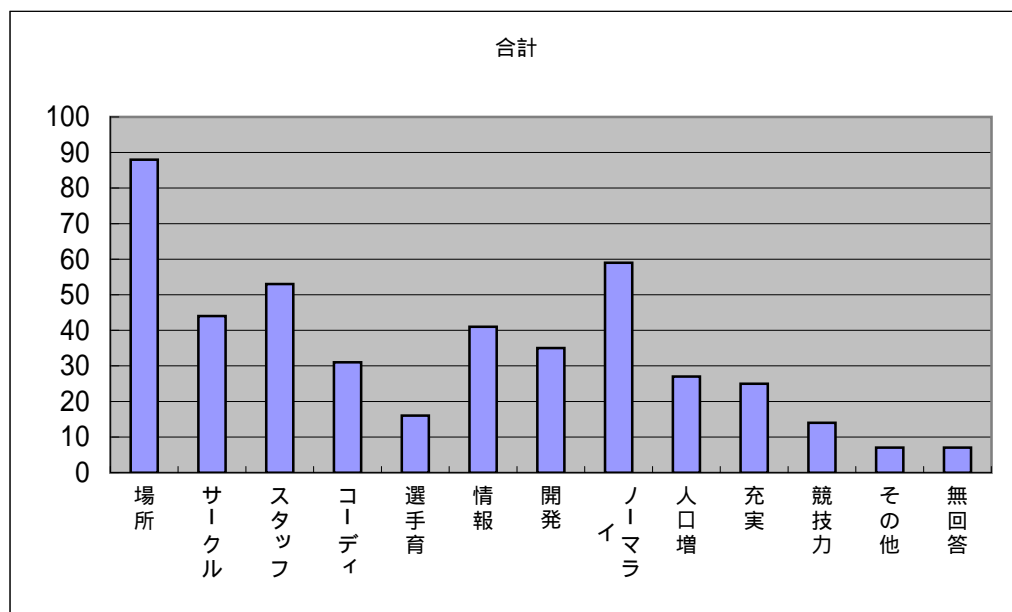
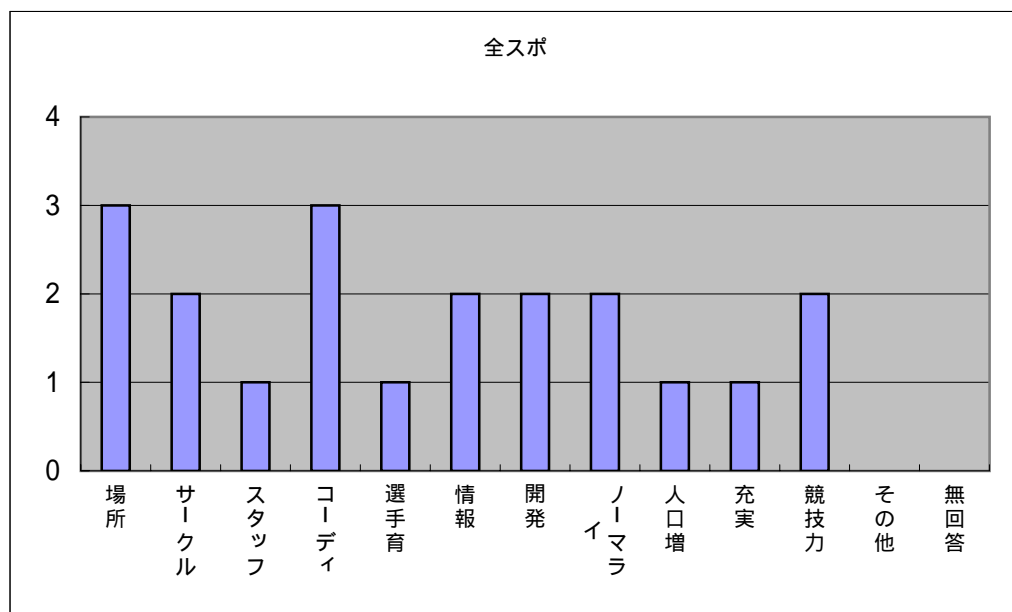
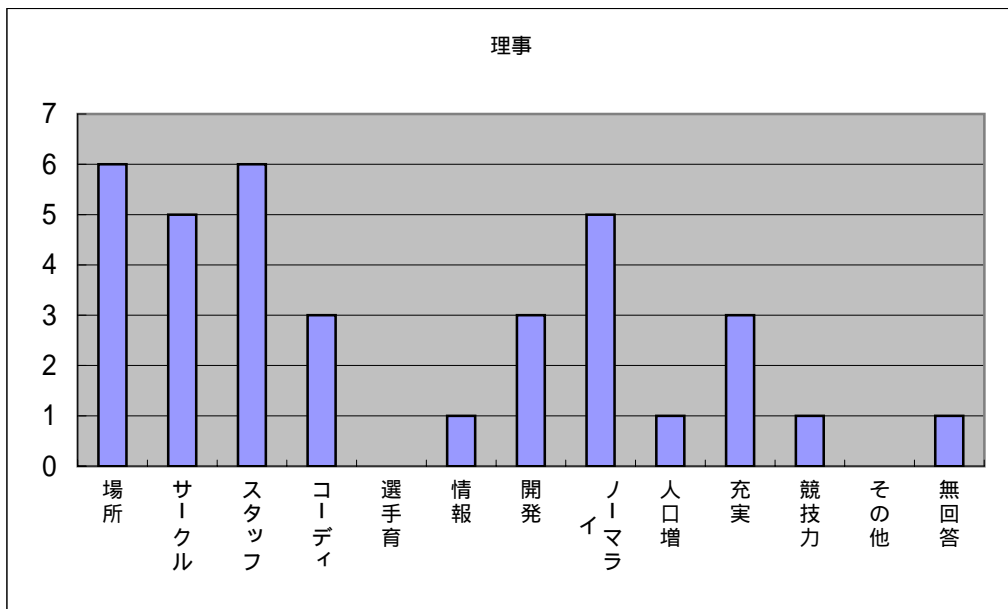
事実

近くに施設や環境 69.8%、障害ある人もない人も共に楽しめるスポーツ開発 46.8%、地域で活動するスタッフ 42.1%、地域でスポーツサークルを 34.9%、情報提供 32.5%

問10の全体を通して

1. 地域で「スポーツできる場所」「指導するスタッフ」「スポーツ仲間」が充実することが発展には大切だと考える人が多い。
2. 「障害のある人とない人が共に楽しめるスポーツの開発」を大切に考える人が多いのは、つどいや卓球バレーの普及の中で大切にしてきた視点であり今後も大切にする必要があるのではないか。
3. 情報提供を望む声が多い。
4. 「選手育成に興味のあるスタッフ」は少ない。一方で、利用者は「技術指導」を望んでおられる方がかなりおられる。そのことをうめる努力も必要ではないか。





## アンケートからわかる障害者スポーツの課題

- 1 . ボランティアが障害者スポーツにかかわって得た感動や経験を積極的に利用者やボランティア仲間や広く一般府市民に伝えていき、障害者スポーツの輪の拡大や障害者理解や啓蒙に役立てていくこと。
- 2 . ボランティアのお誘いは、京都が20世紀大切にしてきた「幅広い年齢層への呼びかけ」を続ける。障害のあるスタッフのお誘い・育成は、以前からやってきたが今後も大切にしていくこと。若い層への呼びかけを工夫すること。
- 3 . 卓球バレーをもっと多くの人がまたもっと日常に楽しめるようにするためにも卓球バレー審判員を増やしていくこと。
- 4 . 日常的に活動できるボランティアが必要であろう。またボランティアというか自分のスポーツ活動とリズムの合うスポーツ仲間的なボランティアの存在ができていくことが大切ではないだろうか。
- 5 . 地域をキーワードに「スポーツできる場所」「指導するスタッフ」「スポーツ仲間」を広げる方策の検討をすること。
- 6 . 情報提供を望む声が多いのでインターネットのホームページなどを使って地域の情報の連携に役立てていくこと。
- 7 . 選手育成に興味のあるスタッフ」は少ないが、利用者は「技術指導」を望んでおられる方がかなりおられるので、技術指導ができるスタッフや技術指導に興味のあるスタッフの育成にも力を入れていくこと。
- 8 . 「つどい」や卓球バレーの普及の中で大切にしてきた視点である「障害のある人となんい人が共に楽しめるスポーツの開発」を今後も大切にしたいに開発に努力すること。
- 9 . アンケートの数値の持つ意味について数年の見通しで検討する。
- 10 . 地域別の集約は、項目に盛り込まなかったのが今回はできなかったが、今後情報としても分析の視点としても必要になってくるだろう。
- 11 . 年齢別・障害別の集約については今回はしないが、情報としても分析の視点としても必要になってくるだろう。